

学校名

狭山市立広瀬小学校

本校児童会は、「さやまっ子の誓い」を

承認します・承認しません。

本校のいじめ防止に関する実践

1 児童会（代表委員会）として

年度初めに、「こんな学校にしたい」について、話し合い、スローガンを決定しています。令和5年度のスローガン「ひろせつ子 みんなにとどけ あいさつの花」の実現のための方策として、代表委員会の児童が中心となって以下の活動を行いました。

（1）ポスター作成・掲示

代表委員会児童が作成し、昇降口や教室前廊下など児童の目につくところに掲示しました。

（2）あいさつ運動（赤い羽根共同募金）

毎学期に行っているあいさつ運動を、2学期にはあいさつ運動と赤い羽根共同募金とを兼ねて行いました。「明るく笑顔で目を合わせながら、気持ちのよいあいさつ」を合言葉に、児童の手本となることを目標に取り組んだ結果、元気よくあいさつを返してくれる児童や笑顔であいさつをする児童、あいさつにプラスαの一言を付け加える児童が増え、代表委員の児童の自信にもつながりました。あいさつを通して友達の輪が広がり、いじめ防止に繋がると考えています。



2 学校全体として

（1）縦割り活動（わくわくグループ）

6年団（1・4・6年）と5年団（2・3・5年）の縦割りグループで活動を行っています。5年生と6年生は、全員がリーダーという意識をもって取り組み、下級生は協力しながら、上級生を手本として憧れのまなざしで見えています。異学年の友達と仲が深まることで、他者との違いを認める気持ちを持つことができると考えています。

① わくわく遊び

今年度は3回、水曜日のロング昼休みに行っています。リーダーたちが相談して遊びを決定し、グループで遊びます。「みんなが楽しい」方法を考えながら、トラブルがあっても担当教師と相談し、上級生は下級生のことを考えて行動し、下級生は解決法を学んでいく良い活動となりました。

② 広小まつり

グループごとに校内の各教室や体育館でお店を開き、前・後半で交代してお店を回ります。今年度は「ようこそ キラキラ笑顔の 宝箱」をスローガンに掲げ（代表委員会で決定）、コロナ対策に気を付けて実施しました。一人一人が自分の役割に一生懸命に取り組み、認め合い、仲よく遊び、自己肯定感の向上につながりました。



(2) 各クラスにおける「いじめ防止」についての話し合い（学級活動 1・2）

各クラスで取り組んだことを掲示物にして、児童同士の目に見える形にすることで、普段から「思いやりの心」を意識できるようにしました。

① 1年生 「思いやりの木」

思いやりの心を持って行動することを目標に、友達の良いところを見つけて「思いやりの木」に貼っていく活動を行いました。「ルールを守らない人に注意をするときに、強い言葉で言ってしまうと相手も嫌な気持ちになってしまい、注意を聞いてくれないので優しい言葉で注意をしたほうが良い」という意見が出ました。

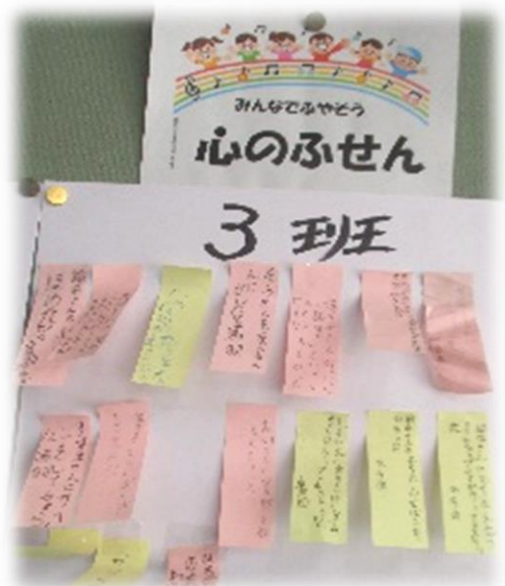
② 2年生 「クラスをよくするために…」

めあて「今よりもっとクラスをよくするために自分が今できることはなにか考えよう」を達成するために、「さいきん、うれしかったこと」「クラスの、もっとよくしたいところ」「どんなことをしたら、今よりもっとクラスがよくなるか」「自分が、今よりもっとクラスをよくするためにできることを書こう」という内容を学級会で話し合い、各自がワークシートに行動宣言しました。



③ 3年生 「いじめ0（ゼロ）」

「さやまっ子の誓い」に基づき、いじめは絶対にしてはいけないし、いじめをしている人を見て見ぬふりをするのもいじめであることを改めて確認しました。クラス、学年でいじめがないようにするために、行動宣言し、紙に書き、クラスごとにまとめて掲示しました。

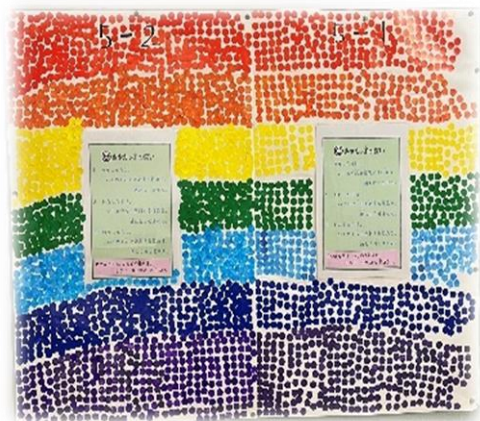


④ 4年生 「心のはせん」

生活班ごとに、「その日に行った良いこと」「してもらってうれしかったこと」を帰りの会で付箋に書き、班ごとの用紙に貼り付けました。教室内に掲示して皆で見合って意欲向上につなげました。

⑤ 5年生 「やさしい心（ハート）宣言」

いじめとは何かについて、文部科学省の定義から「やられた人が心と体に苦痛を感じていること」である共通理解をしました。みんなが過ごしやすいクラスにするためには一人一人の意識が必要であることから、「やさしい心（ハート）宣言」でいじめをなくそうと考えました。（例：いじめはしない＝人に優しくする）帰りの会で、宣言を守れたらシールを貼っていき、クラス全員で大きな虹を作ることを目指しました。冬休み前に1組と2組の虹をつなげました。



⑥ 6年生 「いじめは決して許さない」

「いじめは決して許されないことである、しかし、起こり得る可能性がある」ということを全体で確認しました。その上で、加害者側・被害者側・傍観者側の立場に立ち、自分はどのような場合に、それぞれの立場になり、どのように行動すればいいのかについて話し合いました。